



やまおか在宅クリニックの 活動報告と在宅診療実績



1. 訪問看護ステーションの訪問看護師との連携について

やまおか在宅クリニックの訪問看護師との連携

大分市内22ヶ所、別府市3ヶ所の訪問看護ステーションと連携をしている

25ヶ所中22ヶ所の訪問看護ステーションにて看取りをした。

- 1) 訪問看護ステーション メイプル
- 2) いのべ 訪問看護ステーション
- 3) 訪問看護ステーション いちご
- 4) 豊寿苑 訪問看護ステーション
- 5) 訪問看護ステーション ハートブリッジ
- 6) 大分赤十字訪問看護ステーション
- 7) 訪問看護ステーション ハンズ
- 8) 訪問看護ステーション いずみ
- 9) つる 訪問看護ステーション
- 10) 創生の里 訪問看護ステーション
- 11) アルメイダ 訪問看護ステーション
- 12) 百華苑 訪問看護ステーション
- 13) 訪問看護ステーション おおいた
- 14) おおつか 訪問看護ステーション
- 15) わさだ 訪問看護ステーション

別府市

- 16) 訪問看護ステーション 花の里
 - 17) 訪問看護ステーション ひまわり
 - 18) 清流苑訪問看護ステーション
 - 19) 訪問看護ステーション りぼん
 - 20) だいかく訪問看護ステーション
 - 21) 訪問看護ハートステーション
 - 22) 大分東部訪問看護ステーション
- 1) 訪問看護ステーション ひまわり
 - 2) さくら訪問看護ステーション
 - 3) 湯の町訪問看護ステーション



車で30分以内

大分市で
在宅がん死の
75%以上を
当クリニックが
看取っています。

大分市の地域毎に連日
約60名の訪問看護師と一緒に
働いている

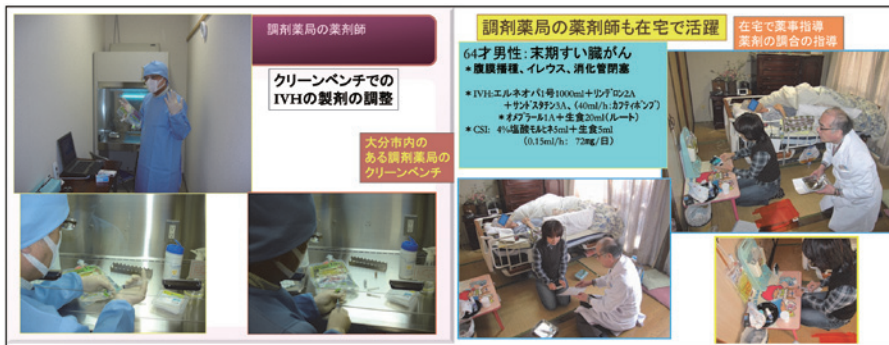
大分市全域(約45万人)をカバーしている

*大分市全体をホスピスにするため、大分市全体の訪問看護ステーションと提携し、22ヶ所、別府市3ヶ所の25ヶ所と連携しています。うち22ヶ所と看取りをしました。

大分市は一部地域を除き(45万人)、車で30分以内に訪問診療できます。このため、大分市内の各地域の訪問看護ステーションと提携できています。約30名前後のがん末期患者も、小分けして、10数ヶ所の訪問看護ステーションを使い、同時に見ています。

この3年間で訪問看護ステーションと連携して当院が317例看取っていますが、各訪問看護ステーションの連携看取り数は、30名以上の看取りが3ヶ所、10名~29名上の看取りが6ヶ所、5~9名が6ヶ所と、大分市内の多くのステーションと連携して看取っています。現在(平成24年7月1日)、がん末期在宅患者31名を12ヶ所の訪問看護ステーションと連携して見えています。

2. 調剤薬局の薬剤師との連携



* 薬剤師さんも24時間365日対応してくれます。夜間にモルヒネを緊急に処方して頂いたこともあります。また、最近、在宅中心静脈栄養症例が増加し(1年間で30例)し、クリーンベンチで用意してくれます。また、薬剤師さんが自ら自宅へ直接出向き、薬事指導も積極的に行って頂けます。



3. 在宅診療患者の実数です。

やまおか在宅クリニックの在宅患者の実績

(平成21年7月2日～平成23年6月30日まで: **3年間**)

I) 在宅診療患者の症例数653例

① **末期がん: 392名:60.0%** (非がん:261例)

② 脳血管障害後遺症: 63名: 9.7%

③ 老人性認知症: 52名: 8.0%

④ 慢性心臓病、高血圧: 35名: 5.4%

⑤ 老人性運動器障害、廃用症候群 32名: 4.9%

(廃用症候群、骨粗しょう症、圧迫骨折、変形性骨関節症、大脳頸部骨折など)

⑥ 慢性肺疾患: 26名

⑦ 神経難病 15名(ALS5例、パーキンソン6例)

⑨ その他: 38名 (糖尿病、新生児仮死、腎臓病、肝炎、膠原病など)

* 施設入所者 102名:15.6%(18施設)、うち末期がん21名

* 実際に訪問診療した患者さんは、3年間で653名で、うち392名が末期がん患者さんで、全体の60%が末期患者さんでした。最初のがん患者さんのみ診る予定でしたが、がん以外の患者さんも在宅診療を多く頼まれ、訪問診療しています。現在(平成24年7月1日)の訪問診療患者は145名で、うち末期がん患者は31名です。

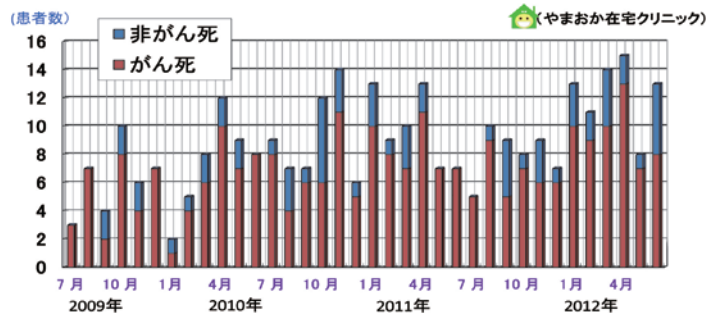
4. 在宅看取り数です。

II) 在宅看取り((平成21年7月～平成24年6月まで: **3年間**)

総数:317例

(末期がん患者:252例(79.5%)、非がん患者:65例)

最近1年間の在宅看取り:122例(末期がん95例、非がん27例)



毎月、平均8.8名:週に2名以上を在宅で看取っています。

* 在宅看取り総数は317例と、3年間で300例を越えています、うちがん患者が252例約80%でした。最近1年間の看取りも122例と増加しています。毎月、平均8.8名:週に2名前後を在宅で看取っています。この1年では月平均10.2例と、毎月10名以上を看取っており、増加しています。



5. 末期がん患者（在宅ホスピスの実績）と在宅看取りの実数です。

| | |
|------------------------------------|---|
| III) 末期がん患者(在宅ホスピス)の実績(3年間) | |
| 1)例数: | がん末期患者数: 392名(60.0%) 在宅全体では653名 |
| 2)年齢: | 23歳～100歳(平均75.3歳) |
| 3)疾患: | 全392名の内訳 |
| | ①肺がん:63名 ②胃がん:49名 ③すい臓がん:41名 ④結腸がん:31名 ⑤肝臓がん:28名 ⑥胆嚢胆管がん:28名 ⑦乳癌:20名 ⑧前立腺がん:19名 ⑨食道がん:13名 ⑩直腸がん:13名 ⑪腎臓がん:11名 ⑫卵巣がん:11名 ⑬子宮がん:7名 ⑭悪性脳腫瘍:7名 ⑮その他のがん・肉腫など:51名 |
| * 最近1年間がん在宅訪問診療 | |
| | 末期がん患者:140名 (全患者196例の71.4%) |
| | うち死亡:127名 |
| | 【在宅死:95名(74.8%) 病院死:32名(25.2%)】 |
| | (在宅死はすべて当クリニックにて看取っています) |

常時:25名-33名前後の末期がん患者を訪問診療しています。

* 3年間の在宅診療した末期がん患者さんは、392名で、23歳から100歳、平均75.3歳でした。この内訳は肺がん63名と最も多く、次に胃がん、すい臓がん、結腸がんなどでした。最近の1年間では140名の末期がん患者さんを新規に在宅診療し、同時期に127名死亡し、95名で約75%は最後まで、在宅で看取れました。独居や介護疲れや最後は病院へという家族などに対しては約25%が病院で看取って貰っています。最後まで在宅看取ることよりも、1-2週間の短期間でも良いので在宅で見ましようと言うことで在宅を開始することで、末期がん患者の在宅紹介が増えていきます。また、常時30名前後の末期がん患者を在宅訪問診療しています。

6. 在宅医療・在宅緩和ケアを推進するために、当クリニックの取り組みです。

在宅医療・在宅緩和ケア推進のため当クリニックの取り組み

- 1) **大分緩和ケアのタベ:年6回開催:**がん緩和ケア、がん在宅医療の勉強会:
(対象:医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、OT,PTなど)
- 2) **大分県緩和ケア研究会:年2回開催:**一般市民への啓蒙目的
- 3) **各病院での在宅医療の出張講義(医師と看護師):**大分県立病院、大分日赤病院、大分岡病院など
一般病院の医療従事者(医師、看護師、SWなど)への啓蒙
- 4) **訪問看護師の教育:**(平成23年度:年12回講義、県看護協会と協力)
(口腔内ケア、がん疼痛管理、看取りなど)
- 5) **薬剤師の教育:**平成22年度:年6回(別府市)、平成23年度:年6回(大分市)
- 6) **医学生や薬剤師、看護師の往診同行実習**(平成23年、大分医大6年生14名往診同行)
- 7) **行政への働きかけ**
がん在宅医療連携推進事業(大分県庁にて平成23-26年度)
大分県がん在宅医療連携推進協議会が立ち上がった
(大分県各地域、保健所、病院、医師会と連携して講義や、実習、勉強会)



7. 大分県がん在宅療養支援コーディネーター事業

* 大分県がん在宅療養支援コーディネーター事業 (平成24年1月～平成26年3月まで)(大分県福祉保健部健康対策課)

| 医療機関名 (地域) | 担当者 連絡先 | 時 間 |
|----------------------|---|---|
| やまおか在宅クリニック (大分市) | 安土 英保 (看護師) 木野村 悦子 (看護師) 高山 朋子 (看護師) 金山 小百合 (看護師) 山岡 憲夫 (医師) 080-8368-3063 | 月曜日～金曜日 (祝日を除く) 9時から17時までの受付 |
| 佐伯中央病院 (県南) | 藤坂 麗史 (医療S W) 山下 典子 (看護師) 藤坂 理恵 (看護師) 080-8366-0128 | 月曜日～金曜日 (祝日を除く) 8時から17時までの受付 土曜日8時から12時まで受付 |
| 宇佐中央病院 (県北) | 土居 昭代 (看護師) 徳光 誠一 郎 (医師) 090-8297-5946 | 月曜日～金曜日 (祝日を除く) 9時から17時までの受付 |

2 委託内容看護師、医療ソーシャルワーカー、医師等が下記の業務を行う。

- (1) **がん在宅相談** (がん患者や家族の在宅療養に関する相談に応じる)
- (2) **がん在宅療養移行支援** (がん診療連携拠点病院等と連携し、地域における在宅療養の移行支援を行うため、社会資源の把握・関係機関等の連絡調整を行う)
- (3) **地域の社会資源関係者を育成とがん在宅ケアのネットワークづくり** を支援する。

*平成24年1月から、大分県庁の福祉保健部に働きかけ、大分県がん在宅コーディネーター事業も開始しました。当クリニックに5名のがん在宅コーディネーター(4名の看護師)を配置しています。がん相談やがん在宅への移行などに、病院や医療者、本人や家族からの問い合わせを一括して引き受け、在宅移行をしています。この6か月で約100名のがん相談があり、71名が在宅へ移行しました。大分県全体をホスピスにするための活動です

8. やまおか在宅クリニック研修の受け入れ状況

* 訪問診療の研修受け入れ実績

(平成21年7月2日～平成23年6月30日まで;3年間)

| | |
|---------------------------|--|
| 総数:74名 | |
| 1)医師:3名 | |
| 2)看護師:15名 | ①大学院学生:6名 ②訪問看護師認定研修中:7名 |
| 3)教育関係:3名 | ①大分県立看護大学2名(教授1名、準教授1名) ②名古屋大学看護学専攻特任講師1名 |
| 4)薬剤師:11名 | ①調剤薬局薬剤師:(別府市6名、大分市4名、佐伯市1名) |
| 5)チャプレン:1名(福岡県) | |
| 6)大学生38名 | ①医学部(大分大学):30名 (1年3名、3年6名、4年2名、5年1名、6年18名) ②薬学部学生:8名 |
| 7)一般大学院生3名:龍谷大学:3名 | |

*当院は、積極的に研修を受け入れている。医師や看護師、薬剤師、医学生など3年間で74名が研修に来て頂いた。期間は多くは1-2日間であるが、医学部6年生は1週間来ている。医学部生が当クリニックのことを書いて頂いている(前述:特別記事)



9. 大分市(県)全体をホスピスに！

在宅をホスピスに！

大分県 生涯 新聞 (毎月刊) 2010年(平成22年)5月28日 金曜日
bunkabu@oita-press.co.jp

体と心安まる場所

在宅ホスピスとは、高齢者や障害者の生活の質を向上させ、安心して暮らせるための施設やサービスを提供する。県内のホスピス施設は、高齢者の増加に伴って急増している。中でも、在宅ホスピスは、高齢者が自宅をベースに、必要に応じて施設を利用できる。在宅ホスピスは、高齢者の生活の質を向上させるだけでなく、介護負担の軽減にも貢献している。県内各地で在宅ホスピス施設が増え、高齢者の生活を支えている。

最期に感謝伝えて



「生と死を考える会」の講演会

講演する山岡豊次医師

「家はホスピスになれる」

大分・生と死を考える会が、生涯新聞に連載している。大分県内の各市区町村で、高齢者の生活を支えるための施設やサービスを展開している。中でも、在宅ホスピスは、高齢者が自宅をベースに、必要に応じて施設を利用できる。在宅ホスピスは、高齢者の生活の質を向上させるだけでなく、介護負担の軽減にも貢献している。県内各地で在宅ホスピス施設が増え、高齢者の生活を支えている。

講師の山岡医師 家族へ「死の教育」を

山岡豊次医師は、在宅ホスピスの重要性を説き、家族への「死の教育」の重要性を説いた。高齢者の死は、家族にとって大きな負担となる。在宅ホスピスでは、高齢者の死を家族が受け入れることが可能である。在宅ホスピスでは、高齢者の死を家族が受け入れることが可能である。在宅ホスピスでは、高齢者の死を家族が受け入れることが可能である。

大分市(県)全体をホスピスに！